

■事業報告

1. 2021 年度活動概要

理事長 太刀川英輔

公益社団法人 日本インダストリアルデザイン協会 (JIDA) は日本で最も歴史ある全国デザイン団体として、2022 年には 70 周年を迎えます。インダストリアルデザインはあらゆる産業のモノづくりをとおして、広く国民生活の質や経済発展、そして持続可能な未来に資するものです。デザインの必要性が叫ばれる時代に、団体としても大きな期待と責任を感じています。

JIDA は 6 つの事業を活動の対象としています。「資格付与事業」はデザインという職能に開かれた知恵を体系的に学び、合格者の能力を認定します。「セミナー事業」は継続的なデザイン学習を促し、創造的人材を増やすことを目指します。「体験活動事業」は、デザインに対する理解を深め、社会での実学を踏まえた体験教育を実践します。「ミュージアム事業」は、日本にとって重要なデザインを記録するとともに、優れた製品の顕彰を通じて明日のデザインの展望を示します。「調査・研究事業」は、デザインと社会の関係性を捉え直し、創造的社会に近づけるための研究を促します。「交流事業」は、広く国内外の組織と連携し、デザインを通して国際社会に貢献します。

2021 年度は新たな理事会体制となりました。2022 年の 70 周年に向けた助走期間と位置づけ、前理事会から受け継いだ協会のリブランディングや様々な変化の準備を進めた 1 年でした。また JIDA は日本のデザイン全国団体を包括する D8 の幹事団体に任命され、名実ともに日本デザインへのリーダーシップが求められる一年でした。来年度は当会にとって節目であり、続く 2023 年には、かつて JIDA が発足に関わった WDO の総会「世界デザイン会議」が東京で開催されます。こうした機会を通して、これからも JIDA はデザインを通じた日本と世界の未来の礎となる活動に取り組んでいきます。

(1) 資格付与事業 <<信頼される職能の確立>>

資格付与事業ではプロダクトデザインの普及・啓発を目的に、商品開発に関わる人やスマートな暮らしをしたい人に向けた関連知識の評価基準となる PD 検定事業と関連出版事業を実施している。2021 年度は、前年度に実施した PD 検定試験の委託先変更と PD 検定事務局を JIDA 事務局内へ移管して初めての通年活動であった。PD 検定を休止せずに事業体制を変更するのは苦勞なことではあったが移管に伴う大きなトラブルもなく、受験者は微増にも拘らず収益は大幅に改善し、概ね順調に推移した。

1) PD 検定事業

検定試験の委託先を CBT-Solutions 社に変更したこと、PD 検定事務局を JIDA 事務局内に移管したこと、同時に制作していた PD 検定ホームページや紹介動画も公開され、運営体制・広報ツールが整ってきた。コロナ禍での受験者減少も危惧されるなかでは前年比 105%となり、合格者数・資格登録者も前年比で 10%程増加、運営体制の移管整備により収益、収支差額ともに大幅に増額となった。

2) 関連出版事業

前年度 3 月のプロダクトデザイン [改訂版] 出版に続き、PD 検定 1 級問題 [改訂版] を作成して従来の 1 級検定との併設運用を開始、及び 1 級問題 [改訂版] に準拠した問題集を新規に制作してダウンロード販売を開始し、その抜粋版を PD 検定ホームページで公開した。ここで経験した問題作成のノウハウは「問題作成の手引き」として定期的なバージョンアップのためのルール整備を進めた。

3) 事業基盤の整備

2020 年度より進めてきた事業基盤の整備、検定試験の委託先の変更と PD 検定事務局の移管、ホームページや紹介動画、フライヤーやバナーなどの準備により運営体制が整備され、スムーズな事業運営に貢献した。また PD 検定事業をスタートするときに整備した規定・規則などは、公益 6 事業となる「資格付与事業」や担当する「資格検定委員会」の規程や規則・内規としてバージョンアップすべく検討に着手した。

(2) セミナー事業 <<専門的知見の充実による社会貢献の推進>>

インダストリアルデザインの発展と普及啓発を目的とし、各委員会やブロックで各種セミナーを実施する。2021 年度は 70 周年の前年に当たるカウントダウンイヤーと位置づけ、69 周年を掲げた「JIDA Rock Night」を 2 回オンライン開催した。JIDA 新ビジョンを受けて、JIDA が超えるべき課題などを積極的に議論した。また、協会の枠を超えた日本のデザイン政策や、日本の産業とデザインの関係を議論する「JIDA Day & Night」も開催した。

1) JIDA ROCK NIGHT Vol.1

2021 年 8 月 17 日、オンラインにてトークイベントを開催し、全国に配信した。元 IDEO 石川俊祐氏を招いた JIDA 理事長との対談と、5 人のブロック長による全国的な JIDA 活動状況を紹介する対談を行った。参加者は 104 名。

2) JIDA Day

2022 年 1 月 25 日、「日本のデザイン政策の未来を考える」をテーマにオンライントークイベントを開催し、全国に配信した。登壇者は経済産業省 商務・サービスグループデザイン政策室長 俣野 敏道氏、公益財団法人日本デザイン振興会 理事長 深野 弘行氏と、コーディネーターとして JIDA 理事長 太刀川 英輔が加わり、日本のデザイン政策について、闊達な意見交換ができた。参加者は 153 名。

3) JIDA ROCK NIGHT Vol.2

2022 年 1 月 25 日、JIDA 正副理事長と 5 人のブロック長でオンライントークイベントを開催し、JIDA が超えるべき領域について語り合った。参加者は 142 名。

4) JIDA Night

2022 年 1 月 25 日「日本の産業とデザインの関係を更新する」をテーマにオンライントークイベントを開催し、全国に配信した。登壇者はマツダ株式会社 常務執行役員 デザイン・ブランドスタイル担当 前田 育男氏、富士フィルムホールディングス株式会社 執行役員 デザイン・ブランドマネジメント管掌 堀切 和久氏、コーディネーターとして JIDA 理事長 太刀川 英輔が加わり、デザイン経営の本質について、実例をもとに闊達な意見交換ができた。参加者は 98 名。

5) その他セミナー

TASK と称し、東京都の 4 区にある中小企業をデザインから支援する事業、名古屋に於いては、名古屋市工業研究所からの受託セミナー、OKB 総研から受託のビジネスセミナーを実施した。富山・石川・福井の北陸三県では地場産業や工芸を発信するクロストークセミナーの開催、自動車関連のデザイナーや学生に向けた「伊藤邦久氏スケッチセミナー」のリアル開催などもあった。

(3) 体験活動事業 <<次世代人材の育成による国家基盤の充実>>

小学生からデザイン系の学生、若手デザイナーまで、幅広い人々を対象とした人材育成事業であり、デザインの普及啓発に大きな役割を果たしている。以下以外にも、各地で開催される企業訪問や工場見学会なども含まれる。

1) 国際デザインワークショップ (ISDW)

学生の国際的視野を広げるために毎年、韓国インダストリアルデザイン協会 (KAID)、台湾工業デザイン協会 (CIDA) と共同で国際学生デザインワークショップを開催している。

コロナ禍の影響によって国際渡航が困難のため、今回はオンラインでリモートワークショップの形式で開催。テーマは「Omoiyari - Asian Sympathy」(「思い遣り」ーアジア的な気配り)。開催期間を従来の 1 週間より延長し、8/16 (月) ~ 8/27 (金) の 2 週間に渡って実施。日本から 24 名、台湾 CIDA から 25 名、

韓国 KAID から 18 名、計 67 名の各国デザイン学生が参加。10 チームに編成し、各チームに Tutor を配置し、Zoom や Miro、Facebook などを活用。現場でも遠隔会議と同様に、Tutor の指導・助言の元に、学生は活発な論議で素晴らしい提案を発表した。イベント終了後、記録冊子も出版。

2) EcoDesignWorkshop/NextEcoDesign 展 2021

東日本ブロックエコデザイン研究会は今年 2021 年 12 月、18 回目となる「NextEcoDesign2021」展を開催した。NextEcoDesign 展は、デザインを学ぶ学生とプロのデザイナー（会員）が協働した作品を制作し、作品を展示する体験活動事業。第 18 回目となる 2021 年度は、オンラインを中心にプロと学生 27 名と一緒に、暮らしを見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」というテーマのもとエコデザインに取り組んだ。

- ・参加者：JIDA 正会員研究会メンバー：13 名
学生：関東地区の学校 9 校、14 名
- ・ワークショップ：8 月 29 日～11 月 14 日
- ・場所：オンライン Zoom 及び東京ミッドタウン・デザインハブ、AXIS ギャラリー
- ・展示発表 2021 年 12 月 10 日（金）～12 月 12 日（日）

3) 電車ワークショップ

3 歳から小学生を対象に、夏休みを利用した電車をつくるワークショップを 2021 年度も開催した。。木材端材の組合せでカタチを考え、組み立て、色を塗り、台車と合わせて電車を作る。最終的にはプラレールに連結をして走らせるので、作って遊ぶことのできるワークショップ。

- ・日 時：2021 年 8 月 8 日（日）、9（月）
- ・場 所：東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナルリエゾンセンター
- ・参加者：親子 35 名

（4）ミュージアム事業 《デザインを通じた日本文化の高度化》

文化的価値の高い優れた製品を選定し表彰するセレクション事業と、優れたデザインの製品を収蔵し、公開するための展示を行うミュージアム事業がある。毎年選定品の図録を作成し、国外も含め関係各方面に配布するなど、学術、科学、文化および芸術に寄与している。

1) デザインミュージアムセレクション Vol.23

2021 年度で 23 年目となるセレクション事業は、コロナ禍にもかかわらず例年通り実施された。リモートを中心とした審査会により、ゴールドセレクション 5 点、特別選定 1 点を含む、合計 62 点が選定。そのすべての内容を 156 ページに及ぶ図録に編集収録し、2,300 部の印刷、国内外主要関係機関、図書館、学校、会員への無償配布を実施した。

2022 年 3 月 4 日～3 月 9 日 AXIS ギャラリーにて、デザインミュージアムセレクション Vol.23 で選定された製品 62 点を一堂に発表、展示する恒例の東京展を通常通り開催した。来場者数約 480 名。

2) デザインミュージアム

2021 年 12 月 1 日～12 日長野市信州新町支所 市民ホールにて、JIDA デザインミュージアム常設館が入る長野市信州新町「ミュゼ蔵」の今年度での閉館にともない、管理主体である長野市主催による閉館回顧展「ありがとうミュゼ蔵 信州新町で実現した JIDA デザインミュージアム」を開催。DM セレクション Vol.22 巡回展と合わせ信州新町での 26 年間のミュージアム活動を製品展示とパネルで紹介した。

3) 第 3 回 京都国際ギフトショー 2022

例年は東京開催のギフトショーに参加していたが、今回は京都のギフトショーの『ACTIVE CREATORS STORE』のブースに出展した。デザインに特化した商品のみを集めたコンセプトゾーンで、商談だけでなくその場で小売販売も行えることが東京との最大の違いになる。

- ・開催日：2022年3月9日（水）・10日（木）
- ・場 所：京都市勧業館みやこめッセ
- ・JIDA 会員出展者：計6名
- ・来場者数：18,553人。JIDA ブース来訪者は：約110名

4) 国際医療機器展 Medtec Japan

2020年3月に開催予定だった Medtec(COVID-19の影響で1年開催延期)へ出展した。コロナ禍でもあり、前半は例年の開催に比べ大幅に来場者数が減ったが、後半は来場者数も増え、期間合計8,807名の来場者があった。(2019年25,407名)

- ・開催期間：2021年4月14～16日
- ・場 所：東京ビッグサイト 西ホール
- ・出展者数：14社

(5) 調査・研究及びその普及事業 <<専門性の深化及び客観化>>

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、デザイナーや関連産業に関わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業、更に社会問題を解決する目的の調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。

1) デザインツールの開発と頒布

2021年度の JIDA STANDARD SAMPLES 頒布実績は全67冊。内訳は「1」:18冊、「2」:13冊、「3」:6冊、「4A」:17冊、「4B」:13冊となった。その他カラーサンプル等は全部で22セット頒布できた。KIDS DESIGN TOOLS の頒布実績は全15セット。内訳は、子どものからだパスデータ集:7冊、2.5Dキッズパーツ:3セット、2Dキッズモデル:2セット、3Dキッズモデル:2セット。これとは別に子どものからだ図鑑は1冊の頒布に留まった。

2) 社会課題を発見し解決するための研究

産総研、消防庁との共同研究会「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」は、例年通り6回行った。その共同研究会のメンバーである NPO 法人セイフキッズジャパンが、三菱財団の研究助成事業「ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト」を受託した関係で、その事業に参画した。月1回ペースの合同ミーティングに3名で参加し、最終的には、子どもが乗り越えられないベランダ手摺のアイデアを具現化した実験用什器を開発した。

川崎市・産総研・東工大の三者が取り組む高齢者の福祉機器の開発に参加要請があり、高齢者の身体保持を考慮したプロダクトデザイン(テーブル仕様)の考案と試作を行った。更にその成果と知見を基に、高齢者の生活を中心に据えた製品デザインや福祉製品のイノベーションを創出するための提案を Web セミナーで紹介した。

3) 知的財産に関する研究会

日本弁理士会意匠部会との共同研究会では、デザインインフラ研究による新たなロイヤルティ契約書雛形を作成した。D8のデザイン保護研究会では、デザイン業を取り巻く現状を把握するためのアンケート実施に関連し、これらの雛形などを JIDA より提供した。

(6) 交流事業 <<社会貢献及びデザイン価値の拡充発展>>

海外では、アジア3カ国でアライアンスを組む交流事業アジアデザインアセンブリ(ADA)と世界デザイン団体(WDO)との交流、国内では企業内デザイナー同士の交流を活性化するインハウス委員会の事業が定例化している。他には中国の団体との事業が増えてきた。

1) ADA Presidents Meeting と ISDW (International Student Design Workshop)

恒例となった、日本 (JIDA)、韓国 (KAID)、台湾 (CIDA)3 カ国の首脳会議と、デザイン系大学生による夏休みの合同デザインワークショップ ISDW を開催した。2021 年は日本が主催国であったが、オンラインで開催された。

2) 海外団体が行なう各種イベントへの協力事業

CHINAPLAS でのビデオ登壇の企画、監修 (11/17～)、WIDD (World Industrial Design Day) イベント (オンライン) に聞き手役として理事長が参加。WDO/World Design Impact Prize 2021 審査対応 (10/14～11/1)、2021TEDA CUP オンライン審査、ビデオメッセージ作成等も行なった。

3) 海外団体が行なう各種イベントの広報支援

CHINAPLAS

WIDD (World Industrial Design Day)

2021TEDA CUP (オンライン)

WIDC (World Industrial Design Conference) 2021

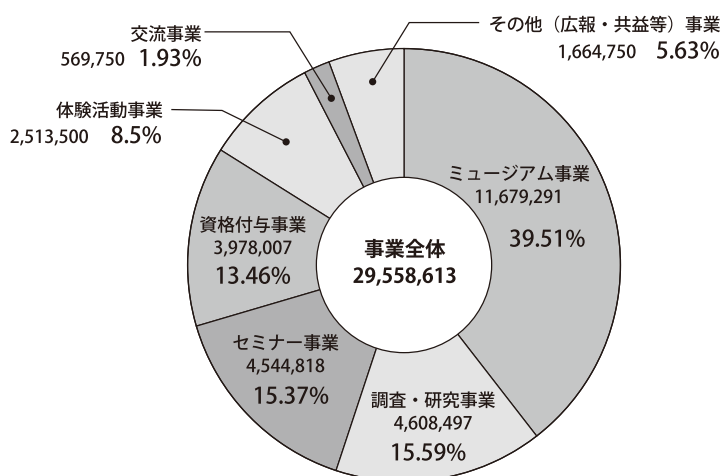
GIDA2021

SKY DESIGN AWARDS 2021

4) 国内での交流事業

企業活動の社会発信と学生交流を支援する観点から、クリエイター就活支援を行う ViViViT 社のイベントを 2 件後援したほか、「第 33 期 JIDA インハウス女性研究会成果報告会」を実施。

■公益事業の事業別割合
(会費収入を除く収入額・円)



(7) 共益事業 《会員扶助及び会員支援》

1) DP ホットライン

会員向け知財相談窓口「DP ホットライン」は常時開設しており、会員からの知的財産権、特に意匠登録に関する相談を受け付けている。2021 年度も何件かの電話相談や対面相談に対応した。

2) 会報誌

2020 年度の活動報告書「2020 アニュアルレポート」は、例年通り 8 月に 800 部印刷し、全会員と関係団体に無償で頒布した。

3) その他

2021 年 4 月から新協会名となり、ロゴ等の表記も一新した。それに伴い、協会イメージの若返りや、ネットがコミュニケーションの中心となる時代の変化に対応するためにプロモーションビデオを制作した。更に、各担当者がノーコードで更新できるシステムを使った、JIDA 公式ホームページメインサイトのリニューアルも行った。これは、会員参加型の情報掲載を目指したもので、多くの会員がアクセスでき、自ら更新できるようになった。